

リハビリテーション医療の方向性（案）

現状及び今後の課題		方向性	具体的な検討・施策等
急性期リハ	○ 平均在院日数の短縮化が進むなかで、術前リハを含め、より早期にリハを着手し、術後の早期の回復期リハ等への適切な転院判断が必要。	○ 適切で早期な回復期リハ等への転院の推進	【既】 脳卒中医療連携パス等医療連携《脳卒中医療連携事業》
	○ そのために、回復期リハ病棟の状況を急性期病院が把握できるようにすることが必要。	○ 各回復期リハ病棟の状況把握による早期転院の推進	○ 急性期病院への回復期リハ病棟を有する病院情報等の提供
	○ 回復期リハ期以降のリハビリによる機能回復に資するためにも術後の看護師等のリハケア意識の向上が必要。	○ 看護師等へのリハビリマインドの醸成	○ リハビリマインドを持った看護師等の育成
回復期リハ	○ 回復期リハ病床は、順調に増加しているが、都心部の多くは人口10万人に30床以下であり、引き続き増床への取り組みが必要。	○ 回復期リハ病棟の充実	【既】 回復期リハ施設設備整備費補助の継続
	○ 回復期リハ適応患者のうち、医学的管理が必要又は入院期間経過等のため、入院出来なかった患者への適切なリハビリ提供体制の構築が必要。	○ 急性期病院から在宅・維持期施設に退院した回復期リハ適応患者へのリハ支援	○ 地域におけるリハビリサポート体制の強化
	○ より多くの回復期リハ適応患者が回復期リハ病棟へ入院できるよう回復期リハ病棟からの円滑な転退院体制を構築することが必要。	○ 回復期リハ病棟から退院した維持期リハが必要な患者への適切な退院先への支援	【既】 脳卒中医療連携パス等医療連携《脳卒中医療連携事業（再掲）》
維持期リハ	○ 回復期リハ病棟を退院した患者のうち、引き続きリハビリが必要な患者に対して、機能低下を招かないよう適切な維持期リハビリの提供体制の構築が必要。	○ 回復期リハ病棟から在宅等に退院した維持期リハが必要な患者へのリハビリの充実	○ かかりつけ医へのリハビリ医療研修の実施
	○ 維持期リハビリの充実のために、リハビリ評価が出来るかかりつけ医の増加及びケアプランを作成するケアマネジャーへのリハビリ知識の付与が必要。	○ ケアマネジャーへのリハビリ医療知識の向上	○ かかりつけ医へのリハビリ提供医療機関の情報提供
	○ 医療リハと介護リハの連携を強化し、維持期リハが必要な患者への適切な地域リハ環境整備の構築が必要。	○ 維持期リハが必要な患者への適切な施設への案内の充実	【既】 ケアマネジャーへのリハビリ研修の実施《地域リハ支援事業》
			【既】 適切な施設への相談窓口の設置《(区市町村包括補助)在宅医療調整・相談事業》
リハ人材	○ 各リハビリ期において、リハ医は不足しており充実が必要。	○ 専門医を含むリハ医配置の推進	○ 病院におけるリハビリ意識向上の普及啓発
	○ 看護師へ、医学的管理だけでなく、リハビリが必要な患者へのリハビリマインドの醸成が必要。	○ 看護師等へのリハビリマインドの醸成	○ リハビリマインドを持った看護師等の育成(再掲)
	○ 経験不足な若手理学療法士等への実践的なリハビリ知識・技術の向上が必要。	○ 理学療法士等のリハ知識・技術の向上	【既】 症例発表会の実施《地域リハ支援事業》

【既】は、既存事業